園長と語ろう

―新米園長の１年（前編）―

園長　家田　美里

この１年間、私にとっては大きな変化の１年でした。人生の中でまだこんなに初めての事があるのか!!と驚くぐらい初めての事だらけ。

何と私が園長になると決まったのは３月も10日程過ぎた頃でした。さあ、それからが大変!!。各所へ変更届を提出したり、挨拶状の作成などなど。やらなければならない事があり過ぎて、毎日が目が回るほどの忙しさでした。普段から机の上に書類が山積みの私でしたが、とうとう２つ目の机を侵略し、現在は山積み机が２つになり朝は毎日探しものから始まります。

さて、４月１日を迎え私の「園長」生活がスタートしました。有り難い事に現場の先生達は昨年度と同じメンバーだったので心強かったです。「何て呼んだらいいですか？」と聞かれ、みんなで考えました。「園長先生」は光信先生、美里先生は園長先生」に決まりましたが、全員が慣れずどこかくすぐったい感じがしました。「園長先生」と呼ばれる事により、私の名前が園では消えてしまう…と思ったのと、呼ばれ慣れないので「美里先生」のままでいいですとお願いしました。さて、新米園長が出来る事といえば会議（実は今まであまり参加せず）・手紙のチェックだけでした。その中に初の新入園児の面接が入り、そして園長会や乙訓の幼稚園の先生達との打ち合わせや研修など対外的な事が増え、こう見えて人見知りの私にとっては緊張のバロメーターは振り切り「いやだー」と叫びたいくらいでした。次は始業式に進級児への話です。知ってる顔ばかりでホッとしながら話し始めると「しってるでー、みさとがえんちょうになってんろー!!」と新年長児が言ってきました。まだ呼ばれ慣れず、そこから話し方もぎこちなくなりました。１つ１つ「初めて」をクリアしてきましたが、第１段階の最大の山場、入園式での挨拶がやってきました。当然、今まで人前で10分以上も挨拶なんてした事はありませんし、うちには理事長先生や光信先生というお説法のプロがいます。２人みたいには話せる訳がない、どうしよう?…、といろいろ悩みましたが、背伸びして格好つけても伝わらないと思い、自分の伝えたい事が緊張で飛んでいかないようにカンニングペーパーを作りました。むらさきを良く知ってくださっている保護者を見つけ、その保護者を見ながらカンニングペーパーを目で追い、何とか大失態をさらさず無事に終わりました。保護者の方にも「何て呼んだらいいの？」と聞かれ「今まで通りの『美里先生』で大丈夫です」と伝え、お互いくすぐったい気持ちから少し開放されました。園長が代わっても４月の風景は何も変わらず、毎日お母さんに会いたくて涙がでてしまう子、水遊びが大好きでびしょ濡れになっている子、職員総出、ボランティアさんと只管落ち着かせ、そして着替えの日々でした。６月になるとＰＴＡ総会への出席や他園の保護者の前にも出る事になり、そのドキドキから「行きたくない病」になりそうでした。終わってしまえばそれもクリアできていました。光信先生のように「どん!!」と構えて保護者の方を不安にさせてはいけない!!という思いがあり、頑張ろうとするのですがこれが又、から回りする事もしばしば。逆に体調を崩し「先生、大丈夫？」と心配させてしまう始末。なんとか復活しましたら、早速、第２段階の山場、入園説明会です。初めてむらさき幼稚園へ来てくださった方への話です。なんとかうちの楽しさを伝えられればと思い話しました。ここでも在園のお母さんを見つけ、そのお母さんを見て落ち着いて話せて無事に終える事ができました。とここまでは新米園長、１年の前半の話。後半は又、別の号でお伝えします。

この１年は毎日が新しく、一生懸命の日々でした。子ども達に元気をもらい、保護者の方にも支えてもらい、そして職員が全員で１チーム（ワンチーム）となり、助け支えてくれました。子ども達、保護者の皆さま、職員のみんなに感謝です。家族も含め、私は周りの人に恵まれていることを実感しました。こんなに助けてもらった私だからこそ、人と人との繋がりの大切さを子ども達に伝えられそうです。新米園長、来年はもう少し「どん」とできるように頑張り過ぎず頑張ります。皆さま温かい目で見守ってください。

